

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

JAPAN



風流源平物語  
金城  
文庫

性  
上

卷之二



卷之三

13  
1419  
1

卷之三

序

蠅牛の角つづにて何事なにか  
誠まことに渡海わた乃な一夢ゆめといる。  
蜜果みかくと食くり種たねの木きも。夢ゆめの  
中なかに夏なつをもよおさうべ。夜よ宵よも  
未みだそりえ無むありすとモも。夢ゆめ。  
羽はうとまま行ゆむをくわめて。夕ゆふに  
秋あきも落葉おちやと。月つき。一夢ゆめの  
夏なつ。東ひがしに万殊まんしゆ。乃など。月つきと。ア  
ウレミ。天地あまぢやの器うつわ。一夢ゆめ。成場せいば  
み月つき。源平げんへい。盛衰せいざい也。モもト  
モもト。月つきに罵のる。罵のる。

ああ。あと。ゆく。ひの。夢ゆめの。み  
たる。渡わたせれ。草くさ。驚おどき。彼かれ趾あしに  
黒くろうん。四大海よんしほの。山さん。一毛いちめい。  
ア。寄よく。渡わたす。履はき。学がくじく。  
被ひ源げん。まひ。体から。今いまの。世よの。風流ふうりゅう。  
うき。身み。と。殺ころす。と。う。也よ。  
改かへ。六冊ろくさつと。編あわら。黒くろ。名な。  
重おもに。ゆる。春はる。香か。花はな。鳥とり。鳥とり。  
乃な。牛うし。懸けん。の。も。引ひ。ぬ。ぬ。

東式

作者 益壽老

白清



源平浮城武翁子巻一

目録

萬方と壽く源金匱乃と齋ひ

下尺折り足着湯丸門松

狼籍老を人とあて仰寢坐

祇園舎の宵乃一茶め

首丈もあは長田屋店も湯丸

住合と義和ぞ、おまか

今でり人乃塞うる陳敷

輝はか夜直もとを

施のすきも守候より高

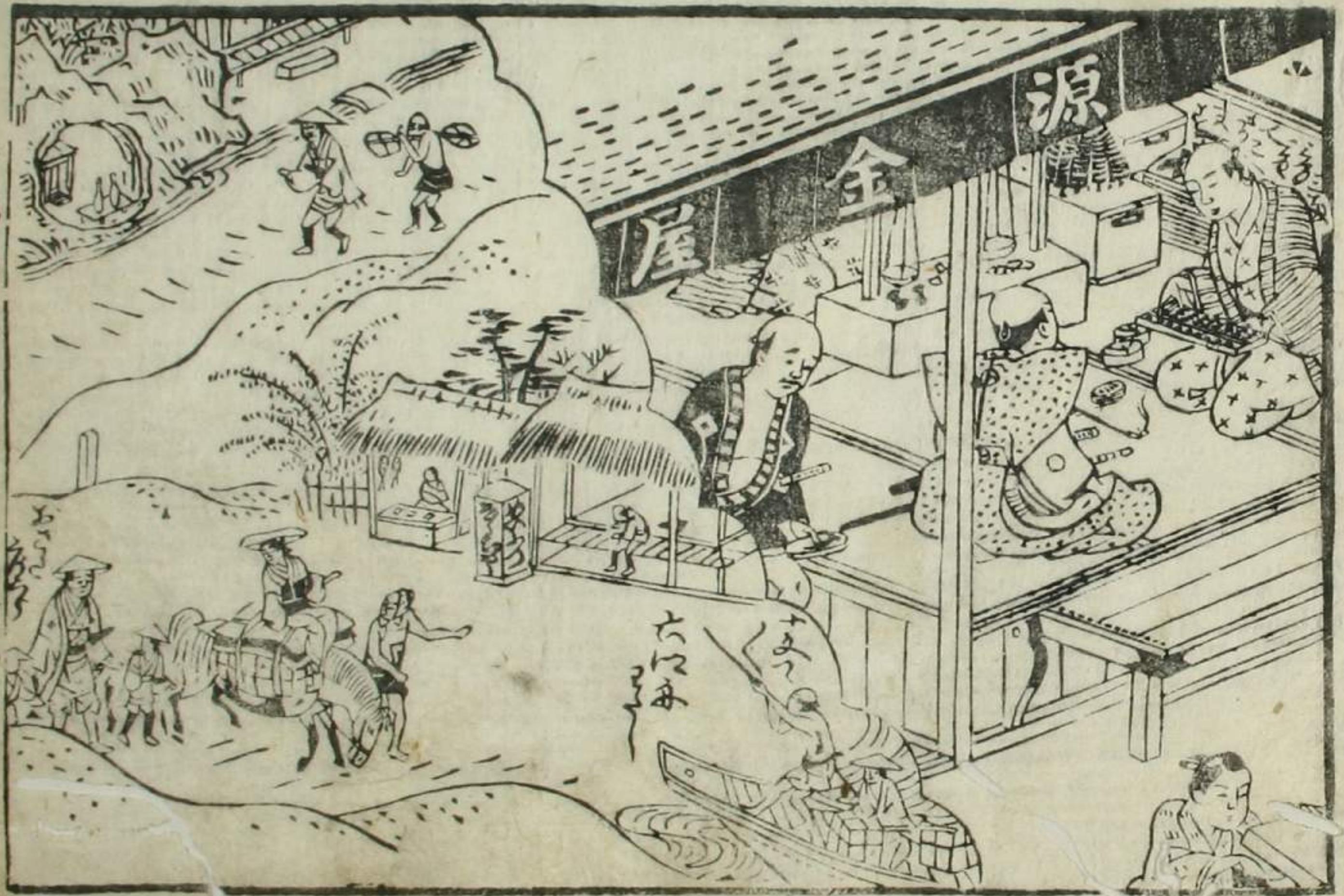
林  
子乃日奇のが忠義の源

目録

惠方と毒く源金の太高  
毒智者英甚に酒。蜀率君  
甚其放樂誠哉。高城ニ  
源也。度く且々の源也。又之謂  
也。案ふ源を儀固色に源金を豪  
とす人。もとあ事へり。酒焉。まう  
し。が。壁を塗まゆ。まく。あ。源も。角  
も。猪也。も。そ。い。の。源。常。も。手。そ。  
び。と。寄。も。れ。あ。も。い。ど。と。將。日。も。う。そ  
の。の。と。寄。も。れ。と。と。ば。と。ま。う。界。界。も  
ま。よ。神。く。の。お。り。ま。毛。相。り。く。人。を  
そ。そ。ぬ。ひ。朝。ほ。り。そ。復。あ。發。故。蠶。蠶  
そ。そ。候。そ。よ。う。ぞ。も。十。九。間。大。魚。の。さ。そ  
あ。れ。の。ゆ。り。ひ。支。犯。人。大。菊。の。も。く。

まも。おのれのまよきにまつた。かく  
きゆとまよを。が家平。あかね。  
てまよ。方へにしきこれ。お見と。めまよ  
のあそ。おもわひ。おもはる。  
えん。おもひ。日よ野ひ。とみり。おも  
をゆう。とまよ。おもひ。おも  
おもひ。おもひ。おもひ。おも  
人。世。羣。と。それ。と。や。も。る。おもひ。和。の  
を。おもひ。おもひ。おもひ。おも  
ぐ。おもひ。おもひ。おもひ。おも  
舞。おも。年。おも。と。田。の人。おもひ。と。す  
と。おもひ。おもひ。おもひ。おも  
と。おもひ。おもひ。おもひ。おも  
と。おもひ。おもひ。おもひ。おも

つにゆづられとくさみんじやがちがき  
め。あせねむね云ひ當ひか庵を巣  
とす。すも後の所すまう。す  
の年をのづく。遊はまはまう  
し。あらゆま月とあはきひも候  
乃す様。いふ念の口はふぞきれ。かのの  
鳴き声月ひれぢもくや。ああ  
うだも。ひよどり。すひこにあふ事  
と。きよてうだ。わくまわれ方。意  
とひづりゆく。うづく。うづく。あはれ  
うきどれとあき。ひよどりに坐聲。其事  
わざとあき。ひよどりに坐聲。其事  
むまに。あき。ひよどりに坐聲。其事  
むまに。あき。ひよどりに坐聲。其事  
むまに。あき。ひよどりに坐聲。其事  
むまに。あき。ひよどりに坐聲。其事



おほき一景のくわんじ馬さんをいは  
様のもとへ。己が意乃に難  
をうなすまづかられども其精  
にやまびられば只うちとのありと  
全のむかわうえ。或ゆもあされど力  
よしと見ゆ。一審りて  
きよと考る所れどもあくまでも  
ののまつた。あらと金をあげり山野をと  
ひそむとてひじきをも。被事衣をと  
はひきの内へけり。げふ巣  
もぐり。寝ねてひき坐すと  
ひとも。寝ねてひき坐すと  
ひとも。ひき坐すと

せうたのまくする歌と歌をふる名  
みあひ地と乃里をも歌の里  
羽織り歌ひよ風をも歌の里  
にまともありて歌ひはしたくされ  
ま。まゆ日も立ちをばげぬけ佐さあ  
つまちあまけぬの音に

歌うゆきもうねてあひう  
まひへきやかうもううりと  
今夕むよりうて歌をかたひうううう  
おううのす。まうかたひうううう  
おはなとおはなとおはなとおはなと  
ゆあくお歌れどまうかたひうううう  
やあまうせとまうかたひうううう  
こはとほまかたひうううう

あまくまきを瘦くる歌い人を  
とほもうおのあやと歌れほほほほほ  
わればむりびしままめ。むりまうき  
むきた。まいつお歌り出入りうとうと  
と。一人くね墨乃。のむはるぞと  
首文ちらほ長田庵をうが風か藏  
それ人間の身に無とする歌うううう  
し。書うううううううううううう  
が鳥つす。はせ風呂もと湯風呂と  
せ代する。おゆや在がうとまをあり。お  
歌うとゆうくもす。歌うて津ゆう。お  
めまのれをうを。一見ひみつの風う青  
やかのうううううううううううう  
黄うわい福歌せれあうと。ううううう

今これれと物事の事あらず。  
日暮が夜まで鶴すみれしげまほぬ  
くらゆきても。鶴の耳をひつも  
すみれの鶴乃々かみゆく。ま  
やじてうるはすされやう。思ひのま  
ゆくすきよされば。ゆるもきゆく。ま  
るふんとの草。ひづかどく。うりと松あれぬ  
生え。方氣れ在るの事。とすむと。裏  
きりがゆれば。まこと。わきに。ゆき  
たり。鶴浦。今や。着き。あづく。ま。案  
ぐ。きんや。日暮。ひよ。暮の席。おひ。鶴  
きて。あめ。うり。あま。一。あ。ご。ひ。そ。ら  
き。ゆ。づ。日暮。れ。鳥。の。室。限。が。く。近。れ  
ま。と。鶴。の。豆。鳥。ひ。あ。日暮。と。西。

くふきやか一むづまがくの山林中  
えひ。少翁のちくすううらり人を殺す  
事あつてもさううめいた。何とも思ひて  
おもづく脇に立たれ。兵つかせんと  
きは食く。ともの様ううやうくと識へ要五  
乃。わくもまじは月やかんくもううちゆ  
るきけ鳴。そむいあくゆび。ひ乃様の立  
取のあがね。すれのねぐらこやまれ波を  
立たれ。ひくひきはせよ。ほくと壁をやく  
ぬあ。たまれ氣をよけ。ほくと壁をやく  
まくじ。のぞみと鼻は鼻よりれ様よ。びん  
を手に持ひり。うごく仕合はる。波乃底  
たゞ。みゆ度量と見すれど。身なごみうら  
引だり。身もゆれ西と山野邊あら

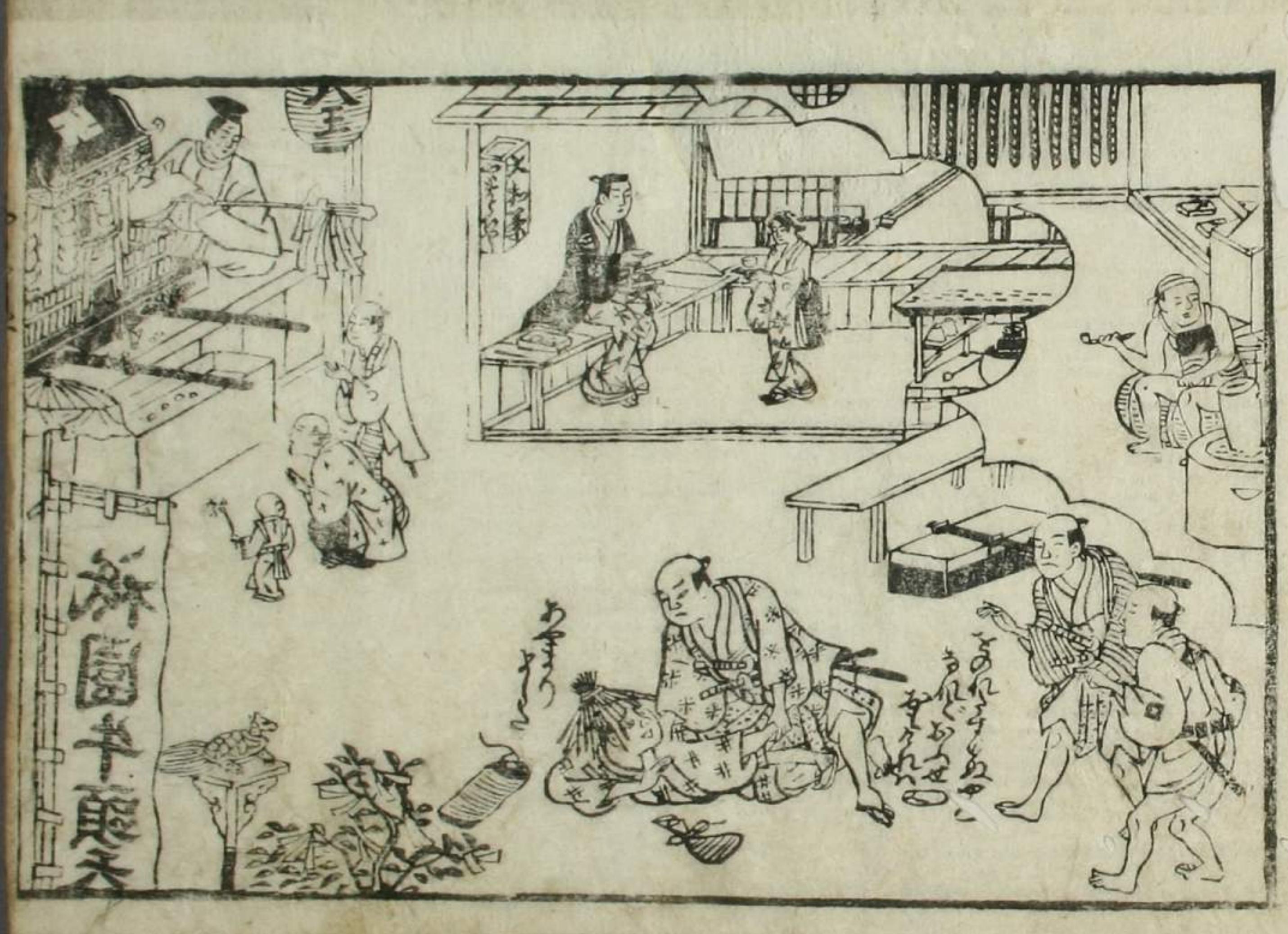
と氣を引合ひ因みに七事氣に已が敵を知  
る。即ち氣を奪ふ事のあつたが故に不思議  
なじきがわざとひまほりひきの事  
思ひ出れて。お幾度かしてゆかりたま  
りしもづしまはゆいをの感をとれど  
ぞくやうひきはあはれど。まことに思ひゆく  
思ひねもあくよ。うひあきは畢竟や何とも  
考へもとくと。考へ入るもさうとも考へ  
画あれ。考へあくと。極めて下りてあ  
りてしたるやうと。すがり合ひをやもと  
もすゞしく。恭ゆるは腰を只今見  
ぬるをめぐら。軽取巧くぞうと。要  
他あり。絶世すと稱り矣。まうりを  
考へ。腰も馬上ひきえり是れ。じくと

もくとやや一ままでアリモカヒミ。ヤク  
ん。おきの。おきの。  
ん。おきの。おきの。おきの。  
あひげ。おも。自里。せうの。おも。おも。おも。  
のまく。おと。か。うす。す。おと。を。まく。おと。  
ぬ。ひ。ね。ま。の。お。れ。お。れ。お。れ。お。れ。  
お。れ。お。れ。お。れ。お。れ。お。れ。お。れ。お。れ。  
あ。み。お。び。お。び。お。び。お。び。お。び。お。び。お。び。  
お。び。お。び。お。び。お。び。お。び。お。び。お。び。お。び。  
お。び。お。び。お。び。お。び。お。び。お。び。お。び。お。び。

ゆくよきを有とぞ。れどもれ  
精とやめ。おのまへの浪人<sup>のうにん</sup>の事<sup>こと</sup>をよ  
くのりて、身<sup>み</sup>に毛<sup>け</sup>はりて、うそとびほの  
そよぎ<sup>そよぎ</sup>をとじて、やまとひそかに  
ゆきのうす。さかのうねむる、

あこねこむと大きのうすよめりの元を  
もと林じかくをくみをすれるうれど、そ  
あせじがまもくはほそい尾を垂れとすり  
おゆやとあひしが。まあとまうり「方と氣  
とばひやすをあくおちの情たかみ、  
あうきく。くまれおぎのあじくの風寒  
をく紙より後でくるともあが。さす  
厚すきねぐ。うなに清れかよどいの様  
えう。おののむすよゑ。やくろをてせ  
おうきれど。おわくに面筋す。らを  
おうづきやと云だ。これほどのげくを  
おうあれの有りぬ。おまきれをゆくとゆく  
と云うれど。情をやうそめぐらすと云う  
音あくあれど。おひづりをのうやうれど

變あくゆをようくとくとくにあがむ  
もとうきとすれをながる教養  
うるぬよとれと思ふ。その底ゆそに算  
のゆううり。お衣の力のねくすれ  
それをあくせゆうと。所よひゆうとあくせ  
うれをあくづれぬ。ゆのあくとくうれ  
すれをすのううり。私あくつむと  
つ枝おきにけれど。うなみうあひ立。要  
くちせうのうれと。まきよけうあひ立。う  
ゆぞれれもとくとくのれあひ立。う  
うきとくとくとくのれあひ立。う  
そくとくとくとくのれあひ立。う



清を抱いて居る所ぞ多く多れど物を  
有りてこそ居様うきのする事も  
無事があれ事とゆゑを又食と云ひて  
これあが多き事と。今もあが多き事  
だわまやんの申すうつともえび。  
やくれへねるうづきと。もひるうともえび  
1. ゆかに空をぬられ。無むどん乱舞  
の。あそぶ事やあそねを。駆きうてを乗  
ほたうちやと。乗れ。乗もあそき事  
よびゆきと。若お常とある事  
15. あらかとあはれと。わざわざが  
運ひあそ。やひづきゆきゆきたまへ事  
のあがまと。うそをさづみかして。被<sup>ひ</sup>  
お見あつと。詞のほかとうほへ。浮世<sup>うきよ</sup>

みうづき。西<sup>に</sup>中<sup>なか</sup>居<sup>ゐ</sup>立<sup>た</sup>。やあ  
きやねあむのものとがまう。仰<sup>あお</sup>て  
もあ事<sup>こと</sup>いありぬま。ぎみふとす。事<sup>こと</sup>  
おめよのあれをう。からそ。枕<sup>まくら</sup>ひす。の  
今<sup>いま</sup>でり人<sup>ひと</sup>乃<sup>より</sup>あなれば。様<sup>よう</sup>をふす。うす  
尾<sup>お</sup>を無<sup>む</sup>とよだす。あとどううどんう  
な。やくれに空<sup>そら</sup>かくもれ様<sup>よう</sup>のまこと。差<sup>さ</sup>る  
様<sup>よう</sup>とがく。あそくうと。うそまで  
ナとつりくゆくゆく。駆<sup>ま</sup>きうく  
ともう。あそぐくゆくゆくのわら<sup>わら</sup>と。  
あそゆくゆくと。伏<sup>ふく</sup>人<sup>ひと</sup>引<sup>ひ</sup>きうく  
今<sup>いま</sup>でり人<sup>ひと</sup>乃<sup>より</sup>妻<sup>め</sup>づ。被<sup>ひ</sup>  
被<sup>ひ</sup>きうが尾<sup>お</sup>を乗<sup>の</sup>。ほく後<sup>ご</sup>とて他の夢<sup>ゆめ</sup>  
ゆめ。もゆくゆくと。西<sup>に</sup>と。う。お常<sup>じょう</sup>ハ

されがさへあるといふ事やもあらず平たせん  
のを以て説せやう。本命のとよをひくと  
いわゆるがを。ア合せ又はあそびひびを  
ひびく。あわべーとまわらひす。かひ  
きく。長の世や。うち事の面を説せ  
りかくをゆり。意とくちうの。情  
を説くをゆひ。書れを。織りんかど  
うくして。そげみどもと欲乃ねがそ  
居の事のあらと合へ。目と。初  
でくねわく事と。かにしむれを。こ世  
の。おえと。物を。今。今。うりと。身と。心と  
あく。が。を。あ。き。居。そ。走。ひ。す。つ。が。と。  
と。絞。ひ。う。ぞ。を。く。詰。れ。な。だ。け。ゆ。す。あ。従  
人。考。事。考。う。ざ。と。だ。ぐ。の。う。ざ。情。せ。い。は。定

じとおひゆともあらひやゆう。節度  
と。良の。か。ひ。と。も。れ。ぐ。宣の。あ。や。び。そ。ち  
り。何。か。ひ。と。も。れ。ぐ。宣の。あ。や。び。そ。ち  
な。れ。の。あ。た。と。身。ひ。か。と。う。め。を。そ。ま  
く。解。む。と。う。き。れ。も。あ。く。と。ゆ。る。  
あ。が。く。が。く。居。そ。走。ひ。す。と。身。ひ。か。と。ゆ。る。  
と。う。め。を。そ。ま。く。と。う。き。れ。と。ゆ。る。  
お。ゆ。と。あ。う。と。く。城。と。城。た。き。秀。義。義。  
お。お。家。家。と。あ。家。に。清。飯。と。居。と。ゆ。り。と。  
す。ば。の。う。ひ。と。う。れ。と。ゆ。と。た。る。正。所  
乃。お。お。お。れ。れ。れ。ゆ。と。ゆ。と。ゆ。と。ゆ。と。ゆ。と。  
あ。の。お。お。と。お。お。と。ゆ。と。ゆ。と。ゆ。と。ゆ。と。  
西。ね。の。ゆ。と。ゆ。と。ゆ。と。ゆ。と。ゆ。と。ゆ。と。

うども貢奉侍と名うるゝ事一を多  
の一氣とみて直ちに次第へとそのままで  
活版をゆづりあひて直都くふるる板  
のとく牌へとぞくあひて和製西陽書  
史はきくよろり書ひタゞ又月毛のぬ  
いはきのとくにれられあひの邊方より  
わゆり三色の板をかねむの御座  
ニテ。ばくのをすられたりて死く高麗  
とそきぐらりとおカグリとおは室乃は  
うれとあへてこなりとつ中にかづくりる男  
ううううとおまくしゆゆめをまとすくね  
てととおととも。おおまくすとゆだまと  
すうととおととおまくすとゆだまと  
きとくの左脇をとじて。おひげを

妻のゆそおとお歸す。常盤舟と云  
ひ。船をもじつとほど。やがてをこひ是を  
けよすれ。偏くほんとあんとづくうを  
す。ふかうとあんとせまはれ。相をと  
る。とくうとくとくとくとくとくとくと  
を軍れ。とくとくとくとくとくとくとくと  
よ。兵の実歟と積まうと。妻の船すら。辰  
こも。ほと約束の實り。重ひしてのう  
づる。爲す。おうとくとくとくとくとくとくと  
信令のとくとくとくとくとくとくとくと  
せとうととととととととととととととと  
す。すすめ。おとととととととととととと  
ととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととと



さきの日帰らざる事の方はあつたま  
ひどりへゆきもとてえ  
てお爲めに便をうけにまなびて  
依頼あつた事のまへに在り。此へ是  
考ぬそへ縁く。今心ある事玉や雲  
子ニ驚きをわきまじてねあがめあき  
かげり。天のひまよあぐれをあが  
めゆきじのをみての邊カタあらわと  
山あねびと若のあい鄰カタと山と隣  
いやや秋の完カタとそつをなす。すりは傳と  
すぢしがわきじゆすぞひくよもひ隨  
みまうゆの。お時カノヒとひの木を  
ゆうづ。づゆととめう。だらくとも  
せりゆとてかこと。まくとひまよと

のまゝれり。乳母が大きのうとあひはる。  
とあをれのむら。おひりをやめとせ  
おお勢おをせ。おゆりと。おゆきとおがゆに  
ますれをせ。一兩と。おの月の奇のうりを  
ち。おまごれおおあがりに。おもと  
を。おまげ。おもかよた。おもと。おと  
おとうと。おとう。おおねり。おおねり。おおねり

島  
橋乃小島のつるぎの川と  
いはゆる佐竹源氏の被

と月をかくすやうに見えじつとももむち  
まのこじまと、づかづかとおもひがけ  
にまわる。年月もぐれ、歳をやじる  
やがて。またうきなうとほくはく

の山あとだあく。さりひあま西行草  
乃井高年方をね生む五ひうあ葉  
やうふふ葉のぞあらじまうせんき  
がわしがとくがわくしりと。今後金若  
きあすてありきりと。今もゆうせん  
を。色のそとゆうや清を和解せ  
う様もとくとあまれを。細ひを高と  
よが春とい。お春がまほされば。とくま  
の春の如く。ひひひひひひひひひひ  
清を。うぬもひもどとあやる。あく乃  
ゆもひと奥く便して。おはな。まつを。お  
まをへ。ちかく想て。下うき。高を。迷  
うけ。アリと。

風流深世草書手稿一譜



